

QuBS 国際ワークショップ 『AnXAS2011』開催について

ActinideXAS2011 (アクチノイドザフス 2011)は、放射光など最先端の分析法を原子力開発研究、原子力発電で燃料として用いられるウランなど重元素であるアクチノイド基礎科学研究への応用をめざし、1999年のESRF(正式名称:European synchrotron radiation facility、フランスにあるヨーロッパ放射光施設)での開催を皮切りに2-3年毎に欧米を中心に開催されてきた国際ワークショップです。今回、本会議は播磨科学公園都市のSPring-8において、3月2日～4日の日程で開催され、日本に加え欧米および中国等の参加者を中心として約70件の口頭発表およびポスター発表が行われます。今回は原子力機構の量子ビーム応用研究部門(QuBS)の主催により、“QuBS 国際会議”としても位置づけられ、これまでのSPring-8のような放射光のみならず、他の量子ビームの利用研究についても紹介される予定です。本会議は、学術的価値が非常に高い重い元素に関する最先端研究から、高レベル廃液の処理の問題など、工業的にも解決しなければならない問題、さらにはSPring-8のような大型施設での放射性物質取扱に関する様々な技術についての発表や討論が行われる予定です。

記

日時 : 平成23年3月2日(水)午前8時30分～

平成23年3月4日(金)午後12時30分

場所 : SPring-8 放射光普及棟(大型放射光施設「SPring-8」内)

主催 : 独立行政法人 日本原子力研究開発機構 量子ビーム応用研究部門

共催 : 財団法人 高輝度光科学研究センター

後援 : 日本化学会、関西原子力懇談会

詳細 : プログラム、参加登録、参加費用など会議の詳細については、下記をご参照ください。

<http://anxas2011.spring8.or.jp/>

以上